OLYMPUS®

ACCURA ZOOM 160
Citia 160

J 使用説明書

・ご使用前にこの使用説明書をお読みください。
・大切な写真(海外旅行など)をお撮りになる前には、
試し撮りすることをおすすめします。

撮影の準備をしましょう
撮影しましょう
さまざまな機能を使ってみましょう
その他

安全に正しくお使いいただくために

このたびは、ACCURA ZOOM 160/Citia 160をお買い上げいただき、ありがとうございます。この説明書を良くお読みのうえ、正しく安全にお使いください。また、お読みになった後は、いつでも見られるように必ずお手元に保管してください。
安全に関する重要事項は、以下の表示と文章で示されます。あなたと他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐため、必ず守ってください。
表示の意味は、次のようになっています。

表示	意味
⚠警告	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
🚫	この記号は禁止（してはいけないこと）を示しています。
❗	この記号は必ず実行していただく強制内容を示しています。

電池について

⃠ この製品で指定されてない電池を使わない。
⃠ 充電できないアルカリ電池、リチウム電池などを充電しない。
⃠ 火の中への投入、加熱、⊕と⊖極間のショート、分解をしない。
⃠ 電池の極性（⊕と⊖）を逆に入れない。
電池は、液漏れ、発熱、発火、破裂する恐れがあります。

⃠ 電池は幼児・子供の手の届くところに置かない。
電池は幼児・子供が飲み込む恐れがあります。
万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談する。

本機について

❶ 万一、使用中に変な音、熱い、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、
①火傷に注意しながら速やかに電池を抜く。
②お買い上げ店またはオリンパスサービスステーションへ修理に出す。
放置すると火災や火傷の原因となります。

❶落下や損傷により内部が露出したら、
①露出した内部に絶対触れない。
②感電、火傷、ケガに注意し、直ちに電池を抜く。
③お買い上げ店またはオリンパスサービスステーションへ修理に出す。
内部高電圧回路による感電、ケガ、火傷の恐れがあります。

⊘分解、修理、改造をしない。
内部高電圧回路による感電やケガの恐れがあります。

❶水に落としたり、内部に水（金属、燃えやすい異物）が入ったら、
①速やかに電池を抜く。
②お買い上げ店またはオリンパスサービスステーションへ修理に出す。
そのまま使用すると火災や感電の危険があります。

⊘引火性ガスや物質（ガソリン、ベンジン、シンナー等）の近くで使用しない。
爆発や火災、火傷の原因となります。

⊘この製品を幼児・子供の手の届く範囲に放置しない。
また、幼児・子供の近くで使用する時は、細心の注意を払い、不用意に製品から離れないでください。幼児・子供には安全警告・注意の内容が理解できません。

加えて以下のような事故の恐れがあります。
例えば　・誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
・操作を誤りケガや感電事故等を起こす。
・リモコンを誤って飲み込む。万一、飲み込んだら直ちに医師に相談する。

フラッシュ・その他

⊘フラッシュ発光部に皮膚や物を密着させて発光させない。
また、フラッシュ連続発光後、フラッシュ部分に触らない。
火傷の恐れがあります。

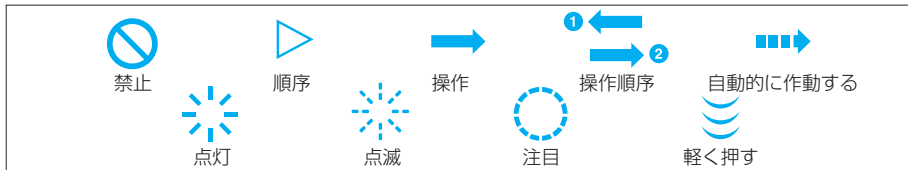
⊘車両（自転車、車、列車等）の運転者に向けてフラッシュ発光しない。
交通事故等の原因となります。
フラッシュをオフにするかまたはフラッシュが発光しないことを確認してから撮影してください。

⊘人や動物の目に近づけてフラッシュを発光させないでください。
一時的に視力に影響を与えます。

⊘リモコンを分解したり、加熱、火中に投じない。
破裂する恐れがあります。

主な特長

■38mm～160mmまでの4.2倍ズームレンズを内蔵。
■リモコン撮影が楽しめます。
■撮影途中に切り替えレバーの操作で簡単にパノラマ撮影が楽しめます。

この使用説明書には以下のような記号が使われています。

・説明文中の［　　］内の注意事項には、特に気を付けてお読みください。
・本文中のイラストは、実際の製品と異なる場合があります。

撮影の準備をしましょう

各部の名称 ……8
ファインダーの表示 ……10
液晶パネルの表示 ……11
視度調節のしかた ……12
ストラップ/ソフトケースの使い方 ……13
使い方早わかり ……14
電池を入れます ……18
電池をチェックします ……19
カメラに慣れましょう ……20

撮影しましょう

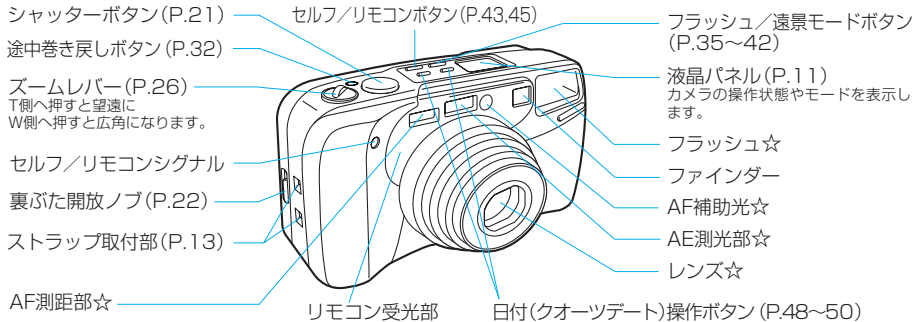
フィルムを入れます ……22
写します ……25
撮影が終ったら ……31
フィルムを取り出します ……32

さまざまな機能を使ってみましょう

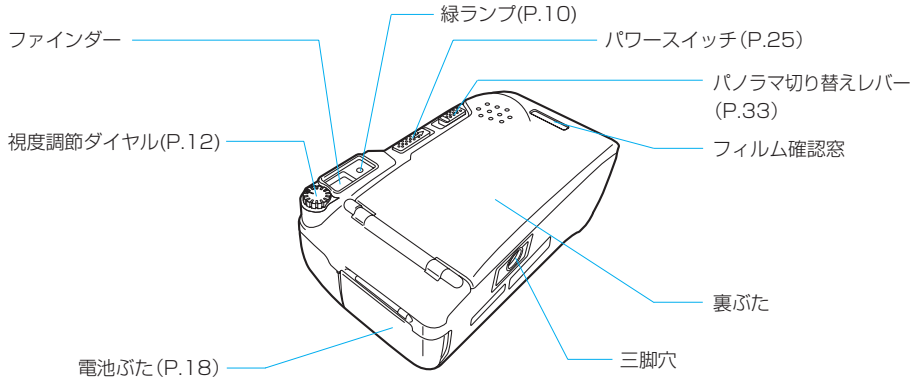
パノラマ撮影のしかた ……33
フラッシュ／遠景撮影のしかた ……35
セルフタイマー／リモコン撮影のしかた…43
セルフタイマー ……44
リモコン撮影 ……45
リモコン(RC-300C)に関するご注意 …46
日付(クォーツデート)操作ボタンの使い方 …48
日付・時分の合わせかた ……49

その他

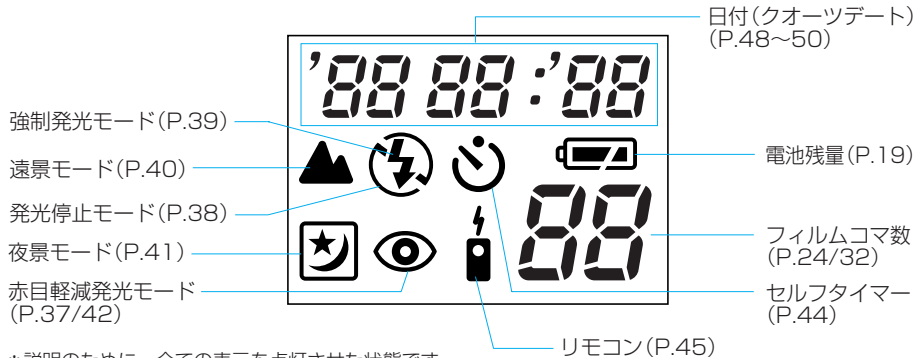
Q&A ……51
取り扱い上のご注意 ……52
電池に関するご注意 ……54
修理に出す前にお確かめください ……56
アフターサービスについて ……60
オリンパスカメラクラブのご案内 ……61
主な仕様 ……62

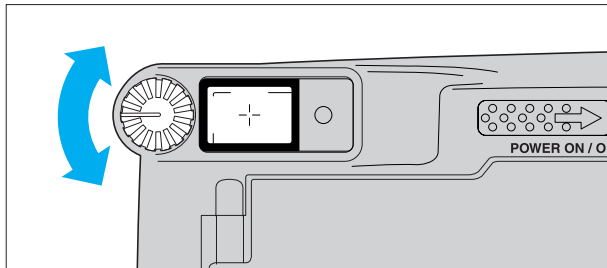
各部の名称

☆部は汚さないようご注意ください。(☆部の汚れはピンボケや不鮮明な写真の原因になります。やわらかい布でよくふき取ってください。)

緑ランプ(P.10)
ファインダー
パワースイッチ(P.25)
パノラマ切り替えレバー
(P.33)
視度調節ダイヤル(P.12)
フィルム確認窓
裏ぶた
三脚穴
電池ぶた(P.18)

ファインダーの表示

標準モード時
パノラマモード時
近距離補正マーク（P.29）
近くのものを撮る時はこのマーク内が撮影範囲になります。
オートフォーカスマーク（P.27）
ピントを合わせたいものに合わせます。
緑ランプ
点灯…撮影できます。
遅い点滅
…シャッターが切れません。
被写体が近すぎる。（P.29）
または、フラッシュ充電中。（P.36）
早い点滅
…シャッターは切れますがピントが合わないことがあります。（オートフォーカスの苦手被写体です）

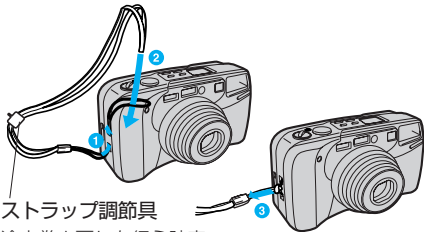
液晶パネルの表示

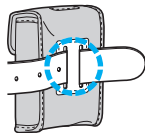
＊説明のために、全ての表示を点灯させた状態です。

視度調節のしかた　ファインダーを見やすくします

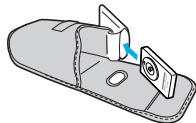
オートフォーカスマークが鮮明に見える位置へ
視度調節ダイヤルを回します。

左回しが遠視用補正方向、
右回しが近視用補正方向
です。

近距離撮影時に被写体が見ずらい場合にも、視度調節ダイヤルを回すことで、見やすくなります。

ストラップ／ソフトケースの使い方

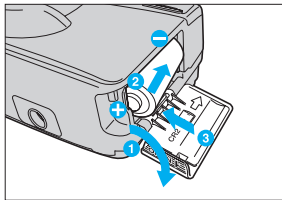
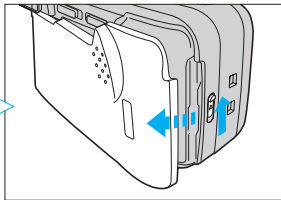
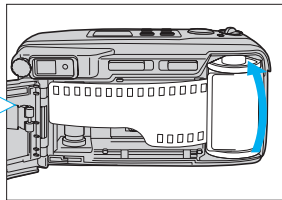
ストラップの取り付け方

途中巻き戻しを行う時突起部で途中巻き戻しボタンを押す事ができます。

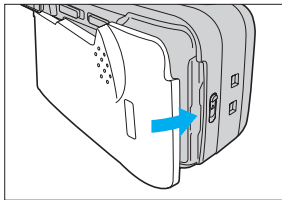
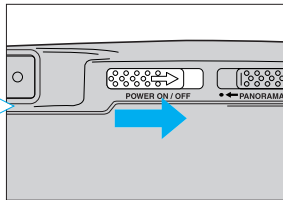
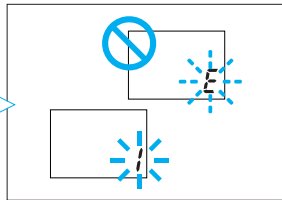
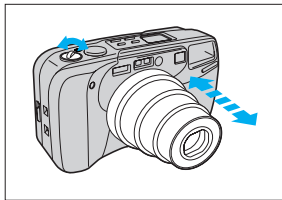
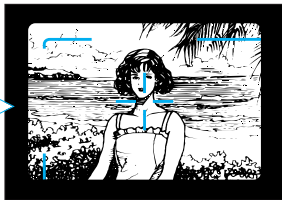
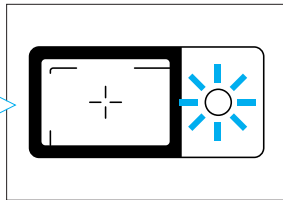
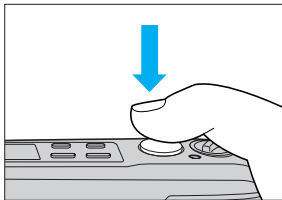
ソフトケース

ベルト通しを使って、腰につけることもできます。

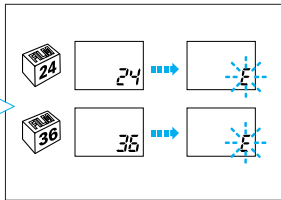
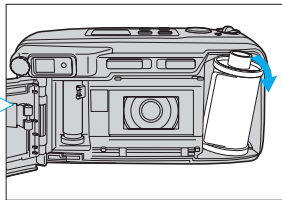
リモコン収納袋

リモコンは必ず図の向きにして入れてください。

※ソフトケースの内側・側面にリモコン収納袋があります。（P.46）

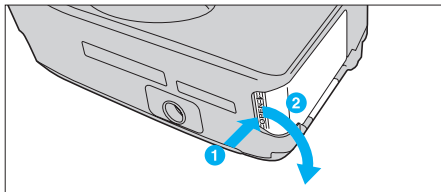
使い方早わかり 通常の撮影手順

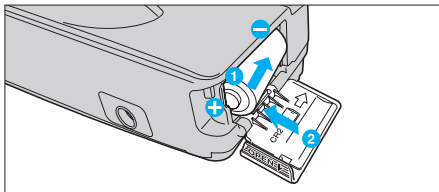
1. 電池を入れます。(P.18)

2. 裏ぶたを開けます。(P.22)

3. フィルムを入れます。(P.22)

ISO400のフィルムをおすすめします。

4. 裏ぶたを閉じると自動的に1コマ目まで巻き上がります。(P.24)

5. パワースイッチをスライドし電源を入れます。(P.24)

6. コマ数表示が 1 になっていることを確認します。(P.24)

7. ズームレバーを操作して構図を決めます。(P.26)

8. 撮りたいものにオートフォーカスマークを合わせます。(P.27)

9. シャッターボタンを軽く押し緑ランプの点灯を確認します。(P.27)

10. シャッターボタンを押し切って撮影します。(P.28)

暗い時はフラッシュが自動的に発光します。(P.36)

11. フィルムが終わると自動的に巻き戻します。(P.32)

12. 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。(P.32)

電池を入れます

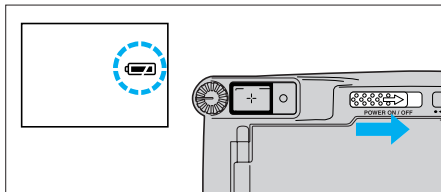
電池に関するご注意をお読みください。(P.54／55)

1. 電池ぶたの下側を押しながら、まわして開けます。

電池を入れる時は電源を切った状態で行ってください。

2. 電池指示マークの通りに電池を入れ、電池ぶたを閉めます。

3Vリチウム電池(CR2)1本をご使用ください。

フィルム約10本分の撮影ができます。(P.51)

電池をチェックします

1. パワースイッチをスライドしてONにし、電池残量をチェックし

長期の旅行、結婚式や、寒冷地での撮影には予備の電池をご用意ください。電池を換えた後は、日付・時分を合わせてください。(P.49)

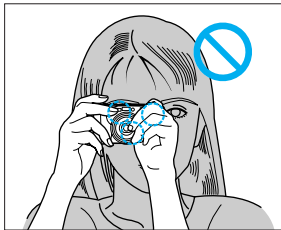
電池残量表示の状態	意　味
が点灯。	電池の容量は十分です。撮影できます。(約12秒後に自動的に消えます)
が点滅し、液晶パネルの他の表示は通常通り点灯。	電池の容量が少なくなりました。新しい電池と交換してください。
が点滅し、液晶パネルの他の表示は消灯。	電池の容量がなくなりました。新しい電池と交換してください。

カメラに慣れましょう

カメラの構え方

よこ位置

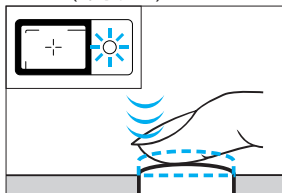
たて位置

悪い例

・両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。
・たて位置の時は、フラッシュが上になるようにします。

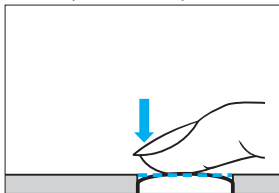
レンズ、AF測距部、AE測光部、フラッシュに指やストラップがかからないようにご注意ください。(P.8)

シャッターボタンの押し方

フィルムを入れる前に練習しましょう。

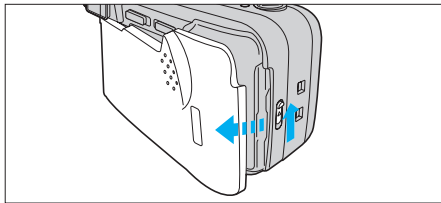
1. 軽く押すと…(半押し)

ピントが固定されます。

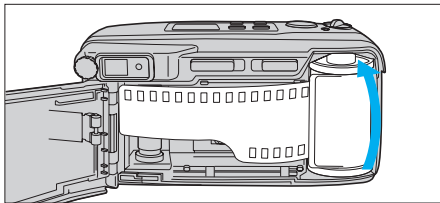
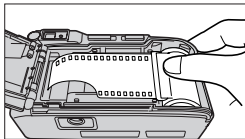
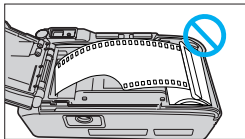
2. さらに押し込むと…(押し切り)

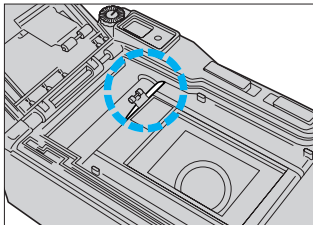
シャッターが切れます。

- シャッターボタンは静かに押してください。
- シャッターボタンを押す時にカメラがぶれると写真がボケる原因となります。

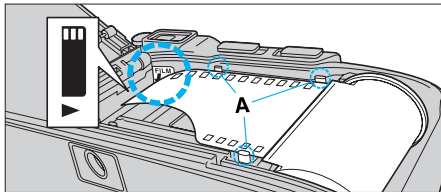
確認 ファインダー横の緑ランプが点灯します。

フィルムを入れます

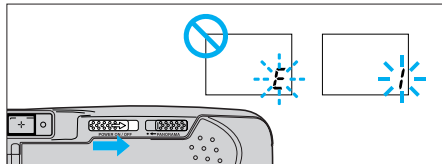
1. 裏ぶた開放ノブを押し上げ裏ぶたを開けます。

レンズなどカメラ内部に触れないように注意してください。レンズにゴミがついていたら、ブロアーブラシなどで取り除いてください。

2. フィルムを入れ、浮かないように押さえます。

ISO400のフィルムをおすすめします。
DXコード付フィルム以外を使う場合はISO100のフィルムをご使用ください。

良い例

悪い例

良い例のようにフィルムの出口を軽く押さえてフィルムをセットし、裏ぶたの右端を押して確実に閉めてください。
悪い例のようにフィルムの出口が浮いていると、うまく巻き上がらないことがあります。

巻き取り軸のところのフィルム状のものには手を触れないでください。

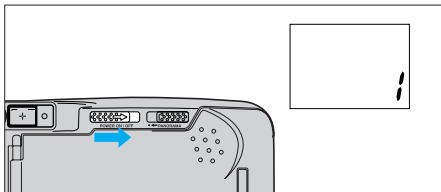
3. フィルムの先端を ←FILM の矢印の先まで出した状態で裏ぶたを閉じます。

自動的にフィルムが１コマ目まで巻き上がります。

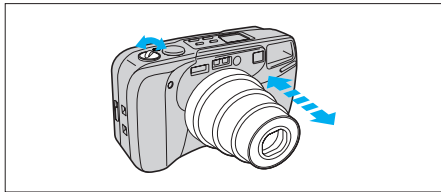
フィルムガイド**A**の間にフィルムが正しく位置していることを確認して裏ぶたを閉じてください。

4. パワースイッチをスライドしてONにします。

確認　液晶パネルのコマ数表示が 1 になります。

E が点滅している時はもう一度フィルムを入れ直してください。

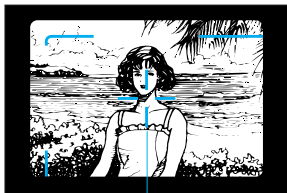
写します

1. パワースイッチをスライドしてONにします。

確認　レンズバリアが開き、レンズが繰り出され液晶パネル表示が点灯します。

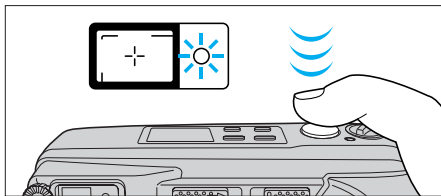
2. ファインダーをのぞき、ズームレバーを操作して構図をきめます。

ズームレバーの使い方

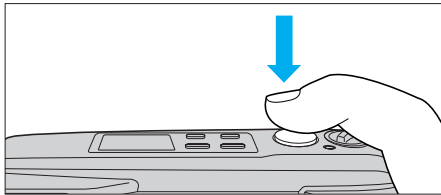
T側を押します。
望遠側(TELE)は
160mmまで

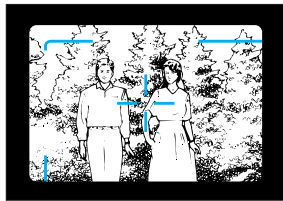
W側を押します。
広角側(WIDE)は
38mmまで

3. 撮りたいものにオートフォーカスマークを合わせます。

オートフォーカスマーク

⚠警告　⊘レンズやファインダーを通して太陽や強い光源を見ない。失明の恐れがあります。

4. シャッターボタンを軽く押してピントを合わせます。

確認　撮りたいものにピントが合い緑ランプが点灯します。この時、露出も自動的に測定されます。
オートフォーカスの精度を向上させるため、自動的にAF補助光が発光します。

5. そのままシャッターボタンを押し切ると撮影できます。

自動的にフィルムが巻き上がり、フィルムコマ数表示が1コマ進みます。

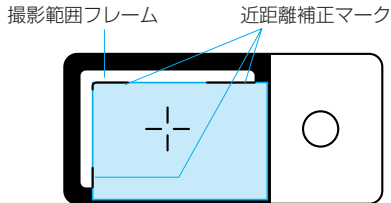
マルチオートフォーカス

このカメラはマルチオートフォーカスシステムを内蔵していますので、このような構図でもピントが合いやすくなりました。

撮影距離

撮影はWIDE時0.7m～∞(無限遠)、TELE時1.2m～∞(無限遠)の範囲で行ってください。

撮影の近距離限界は撮影レンズの焦点距離により異なります。WIDEとTELEの間は、0.7mと1.2mの間になります。撮影の近距離限界より近い距離で緑ランプが遅い点滅をした時は、シャッターは切れません。緑ランプが点灯する距離まで離れて撮影してください。ただし極端に近い距離ではシャッターは切れますが、ピントは合いません。

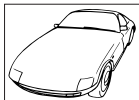
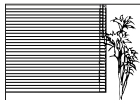
・ピントはオートフォーカス(AF)により自動的に合いますが、条件によりAFの苦手な被写体もあります。(P.30)

近距離補正

撮影範囲フレーム
近距離補正マーク

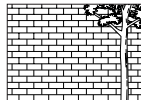
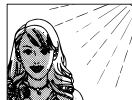
撮影範囲フレームは∞(無限遠)時に写る範囲ですが、撮りたいものまでの距離が近づくにつれて写る範囲が右下に移動します。近距離限界の時は近距離補正マーク内(青の範囲)が実際に写る範囲となります。

ピントの合いにくいもの（オートフォーカスの苦手被写体）

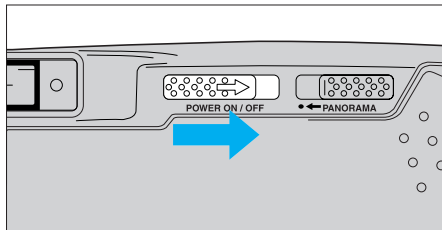
ACCURA ZOOM 160/Citia 160は、ほとんどの被写体に対してオートフォーカスが可能ですが以下の①〜⑥のような条件では、ファインダー横の緑ランプが点灯もしくは、早い点滅をした時、シャッターは切れますがピントが合っていない時があります。

下のようなものを撮りたい時は、同じ距離にあるものでピントを合わせてから構図を決めて撮影してください。

①コントラストのない被写体

②縦線のない被写体

③画面の一部に極端に明るいものがある被写体

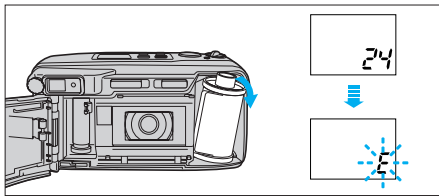
④遠いものと近いものが共存する被写体

⑤繰り返し模様の被写体

⑥強い逆光の被写体

撮影が終ったら

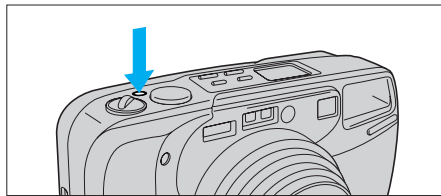
1. パワースイッチをスライドしてOFFにします。

レンズが収納され、レンズバリアが閉じます。
また、液晶パネルの表示が消えます。

フィルムを取り出します

フィルムが終わると自動的に巻き戻しを開始します。

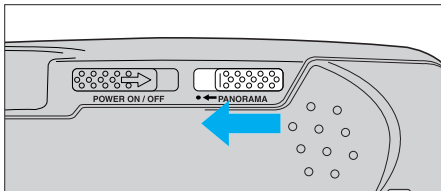
作動音が止まり*E*の点滅表示になってから裏ぶたを開けてフィルムを取り出してください。

巻き戻し中はフィルムコマ数表示が減っていきます。

フィルム規定枚数より多く撮れて終わることがありますが、最後に撮影したコマがプリントされないことがあります。

途中巻き戻し

途中で巻き戻す時はストラップ調節具の突起部で巻き戻しボタンを軽く押してください。シャープペンシルなど先のとがったもので強く押さないでください。

パノラマ撮影のしかた

パノラマモードへの切り替え

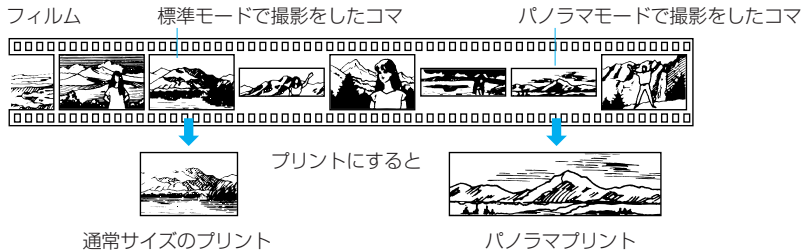
パノラマ切り替えレバーを**PANORAMA**に合わせると
パノラマモードになり、元に戻すと標準モードになります。

パノラマレバーは途中で止めて使用しないでください。

パノラマモードでは日付、時分を写し込むことはできません。（P.48）

パノラマ撮影のしくみ

フィルム　標準モードで撮影をしたコマ　パノラマモードで撮影をしたコマ

プリントにすると

通常サイズのプリント

パノラマプリント

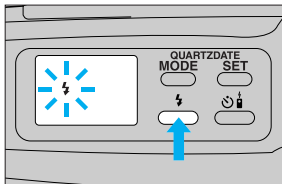
「パノラマプリント」では通常の35ミリフィルム1コマ分の上下をカットして横長の画像を写し込み、プリント時に約12×35mmの範囲が、パノラマサイズ(89×254mm)に引き伸ばされます。撮影枚数は通常と変わりません。

パノラマモードで撮影された場合は店頭にてその旨お伝えください。

フラッシュ／遠景撮影のしかた

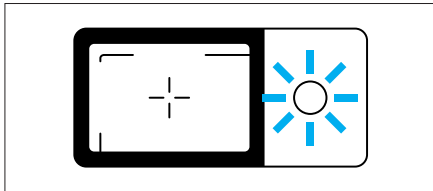
このカメラには6つのフラッシュモードおよび遠景モードがあります。撮影状況・目的に合わせてお使いください。

モードの切り替え方

フラッシュ／遠景モードボタンを押すごとに、右の順に切り替わります。
フラッシュモードは液晶パネルに表示されます。

表示	モード	機能・用途
表示なし	オート発光	暗い時、自動的に発光します。(P.36)
👁	赤目軽減発光	目が赤く写ってしまう現象を軽減します。(P.37)
⊘	発光停止	フラッシュを発光させたくない時に。(P.38)
ϟ	強制発光	必ず発光させたい時に。(P.39)
▲⊘	遠景	風景の撮影に。フラッシュは発光しません。(P.40)
☽	夜景	夜景をバックに人物を撮る時に。(P.41)
☽👁	赤目軽減夜景	夜景時の赤目を軽減したい時に。(P.42)

⚠注意　人や動物の目に近づけてフラッシュを発光させないでください。一時的に視力に影響を与えます。

オート発光モード

暗い時、フラッシュが自動的に発光します。

確認 シャッターボタンを軽く押した時、ファインダー右の緑ランプが点灯していれば撮影できます。

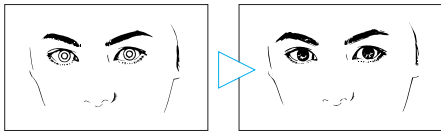
フラッシュ撮影可能範囲(ネガカラーフィルム使用時)

ISO	W(広角)	T(望遠)
100	0.7～ 4.0m	1.2～1.8m
200	0.7～ 5.7m	1.2～2.5m
400	0.7～ 8.0m	1.2～3.6m

・リバーサルフィルム使用時の遠距離側撮影可能範囲は各々の70%程度となります。

・緑ランプが遅い点滅をしている時は、フラッシュ充電中のためシャッターが切れません。一旦シャッターボタンから指を離し、数秒待ってから撮影してください。

赤目軽減発光モード

目が赤く写る現象を軽減します。
本発光の前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。
予備発光をする以外はオート発光と同じです。

- シャッターが切れるまで約1秒かかりますので、最後までカメラをしっかり構えてください。
- 以下の場合は、赤目軽減の効果が現われにくくなります。
  1.フラッシュを正面から見ていない場合
  2.予備発光を見ていない場合
  3.被写体までの距離が遠い場合
  また個人差によっても赤目軽減の効果が異なります。

発光停止モード

暗いところでも発光させたくない時に使います。
このモードでは暗くてもフラッシュは光りません。フラッシュを使えない美術館や夕景、夜景などを撮影する時に使います。

シャッタースピードが最長約1秒まで延長されますのでカメラぶれを防ぐため三脚をご使用ください。動く被写体はぶれて写ります。写される人には動かないようにご注意ください。

・パワースイッチをスライドしてOFFにするとオート発光モードに戻ります。

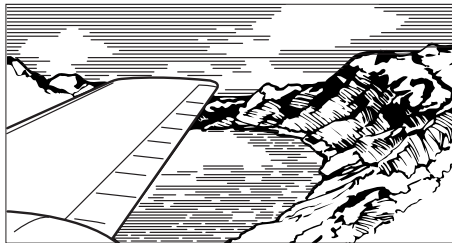
ϟ 強制発光モード

必ず発光させたい時に使います。
強制発光モードはフラッシュを常に発光させるモードです。木かげなどで顔にかかった影をやわらげたい時や、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影の時などに使います。

フラッシュ撮影可能範囲(P.36)内で撮影してください。非常に明るい場所では効果があらわれにくくなります。

・パワースイッチをスライドしてOFFにするとオート発光モードに戻ります。

遠景モード

窓ガラス越しの風景、遠方の山や雲の撮影時などに使います。ピントは遠方位置にセットされます。

・フラッシュは発光しません。
・シャッタースピードは最長約1秒まで延長されますので、暗い時はカメラぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。
シャッタースピードが遅くなると動く被写体はぶれて写ります。

・パワースイッチをスライドしてOFFにするとオート発光モードに戻ります。

夜景モード

夜景をバックに人物を撮る場合に背景を黒くつぶさずに人物も夜景も鮮やかに写せます。

・パワースイッチをスライドしてOFFにするとオート発光モードに戻ります。

三脚などでカメラを固定してください。

シャッタースピードが最長約1秒まで延長されますのでカメラぶれを防ぐため三脚をご使用ください。動く被写体はぶれて写ります。フラッシュが光った後も写される人には動かないようにご注意ください。

赤目軽減夜景モード

夜景をバックに人物を撮る場合に、目が赤く写る現象を軽減します。
本発光の前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。
予備発光をする以外は夜景モードと同じです。

赤目軽減発光モード(P.37)と夜景モード(P.41)の □ 内の注意事項をご参照ください。

・パワースイッチをスライドしてOFFにすると赤目軽減発光モードに戻ります。

セルフタイマー／リモコン撮影のしかた

モードの切り替え方

セルフ／リモコンボタンを押すごとに右の順に切り替わります。
モードは液晶パネルに表示されます。

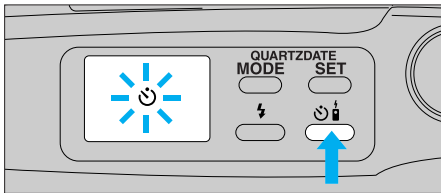
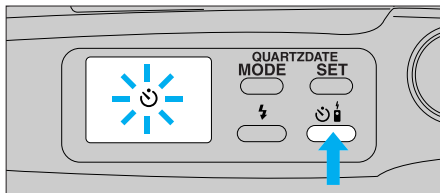
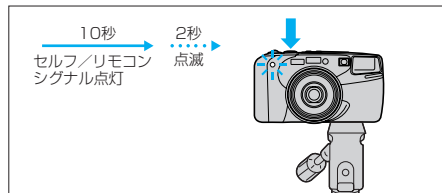



表　示	モード
表示なし	——
	セルフタイマー（P.44）
	リモコン撮影（P.45）

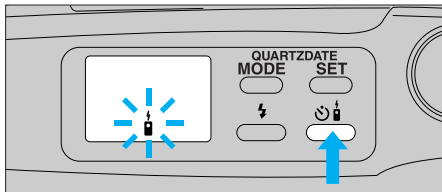
セルフタイマー

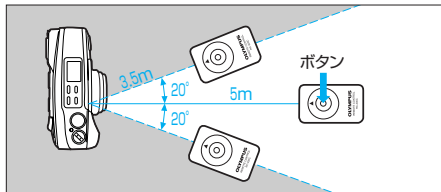
1. セルフ／リモコンボタンを押し、液晶パネルに を表示させます。

確認 三脚などにしっかり固定してください。

2. 撮りたいものにカメラを向け、シャッターボタンを押します。

約12秒後にシャッターが切れます。

・カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。正しいピント・露出が得られません。
・撮影後、セルフタイマーモードは解除されます。
・作動中のセルフタイマーを途中で中止したい時はセルフ／リモコンボタンを再度押してください。

リモコン撮影

1. セルフ／リモコンボタンを押し、リモコンマークを表示させます。

・撮影終了後はセルフ／リモコンボタンを押してリモコンモードを解除してください。

2. リモコンをカメラに向け、リモコンのボタンを押すと、セルフ／リモコンシグナルが点滅し、約3秒後にシャッターが切れます。

・この図の範囲内でご使用ください。
・ピントはカメラ正面のものに合います。

・逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。その場合はセルフタイマーをご利用ください。
・インバーター式蛍光灯が近くにあるとリモコン撮影ができないことがあります。

リモコン(RC-300C)に関するご注意

◎リモコンは幼児の手の届かないところに置いてください。また、万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

◎リモコンは生活防水ではありません。ぬらさないようにご注意ください。

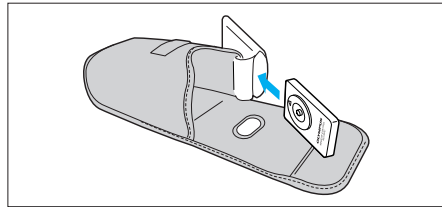
◎水中での使用はできません。

◎無理な力を加えないでください。

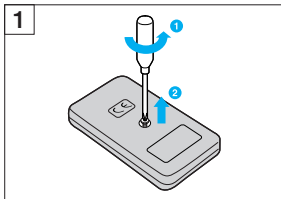
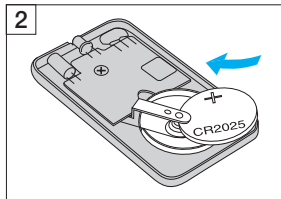
◎リモコンを分解したり、加熱・火中に投入することは危険ですので、絶対にしないでください。

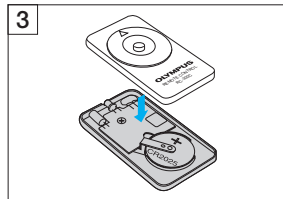
◎水洗いをしないでください。

◎使用可能温度は、－10℃～40℃です。

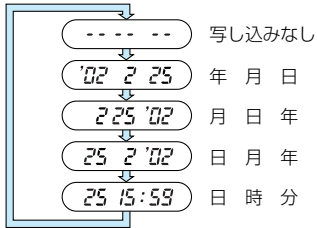
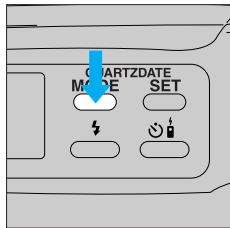
リモコンをソフトケースに入れる場合

・ソフトケース内側、側面のリモコン収納袋を取り出し、図の向きに入れてください。逆に入れるとボタンを押したままの状態となり、電池が消耗することがあります。

電池交換のしかた

ボタンを押してもセルフ／リモコンシグナルが点滅しない場合は電池（CR2025）を交換してください。

①リモコンを裏返し、裏面のネジを反時計方向に回しながら、取り出します。

②リモコンの表面を上にし、表面のふたを開けます。

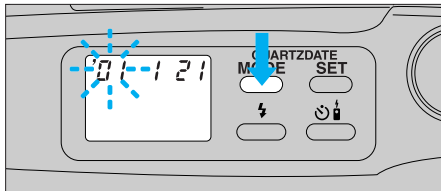
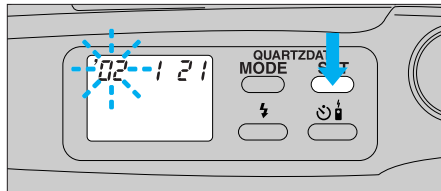
③電池の ⊕ 面を上にして、板状と線状の金属接片の間に挟み込みます。

④表面のふたを載せ、リモコンを裏返し、ネジを時計方向に回して締めます。

日付(クォーツデート)操作ボタンの使い方

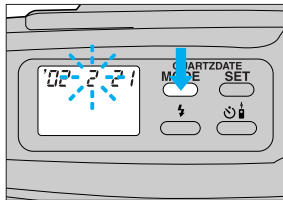
MODEボタンを押して、写し込みたい表示を選びます。

MODEボタンを押すたびに、表示が上図の順に変わります。

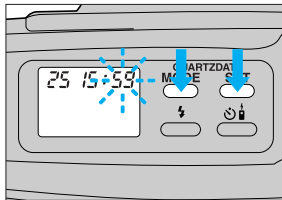
電源はカメラ本体の電池と共用です。カメラ本体の電池交換時には、必ず日付・時分を確認、修正してください。
日付は画面の右下に写し込まれます。日付の写る位置に白・オレンジ・黄色などの明るい色がある時、日付が読み取りにくくなることがあります。規定枚数を超えて撮影したコマには日付が写し込まれない場合があります。白黒フィルムには日付は写りません。
パノラマモードでは、日付・時分を写し込むことはできません。

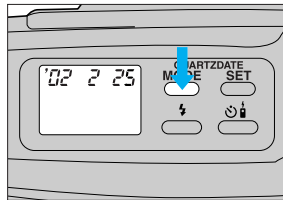
日付・時分の合わせかた

1. MODEボタンを押し続け年表示を点滅させます。

2. SET ボタンを押して年表示を合わせます。

1回押すと1進み、押し続けると早送りができます。
行きすぎた時はそのまま押し続けると戻ります。

・電池を入れた時には必ず日付・時分を合わせてください。

3. もう一度、MODEボタンを押し、月表示を点滅させせます。

MODEボタンを押すごとに点滅箇所は年・月・日・時・分と変わります。

4. SETボタン、MODEボタンを押す操作を繰り返し、時･分まで合わせます。

確認 分表示が点滅しています。

5. MODEボタンを押すと完了です。

年月日表示になります。
写し込みたい表示を選びます。(P.48)

Q&A

Q：カメラ本体の電池はどの位もちますか。
A：リチウム電池(CR2)で約10本(24枚撮り、フラッシュ使用率50%その他当社試験条件による)の撮影ができます。フラッシュおよびズーム使用頻度が少ない場合は、さらに長持ちします。

Q：露出・ピントはいつ測定されるのですか。
A：シャッターボタンを半押しした時に測定され、半押ししている間固定されます。

Q：フラッシュが熱くなるのですが。
A：連続してフラッシュ撮影するとフラッシュ部が熱くなることがありますので少し休ませてからご使用ください。

Q：赤外フィルムは使えますか。
A：使えません。

Q：パノラマ撮影した時に、フィルムに写し込まれる範囲が、コマによって異なることがあるのですが。
A：パノラマ撮影時にズームを使用するとフィルムに写し込まれる範囲は多少変化します。パノラマプリントの際、ファインダーで見える範囲でもプリントされない部分がでるおそれがあるので構図には余裕をもってください。

取り扱い上のご注意

直射日光下の車の中や夏の海岸など、高温多湿の場所にカメラを放置しないでください。

戸棚や引き出しに使われているホルマリンや防虫剤のナフタリンから離して保管してください。

水気がついたらすぐに乾いた布で水分を拭き取りましょう。特に塩分は禁物です。修理不可能になることがあります。

カメラを清掃する時アルコールやシンナーなど、有機溶剤を使用しないでください。

テレビ・冷蔵庫などの電気製品の上や近くに置かないでください。

泥や砂をかぶらないようご注意ください。修理不可能になることがあります。

強い振動やショックを与えないでください。

ズームレンズに無理な力を加えないでください。

●風通しのよいところに置いてください。湿気の多い時期にはビニール袋などに乾燥剤と一緒に入れておくと安全です。

●使用可能温度は－10℃～＋40℃ですが、低温では電池性能の劣化によりカメラが作動しないことがあります。

●寒い戸外から熱い室内に入るなど、急激に温度が変わった時は、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。

●カメラ前面のAF測距部・レンズ・ファインダー・フラッシュ発光部などを髪や手でふさがないでください。

●長時間使用しないと、カビがはえたり、故障の原因になることがあります。時々シャッターを切るようにし、また使用前には作動点検されることをおすすめします。

●飛行機をご利用されるときは、フィルムの感度にかかわらず未現像フィルムやフィルムの入ったカメラは、機内にお持ち込みください。預け入れ荷物に入れた場合、X線検査で感光してしまうことがあります。また、手荷物検査の際にもフィルムが入っている場合は、検査官に伝えてX線の照射を避けてください。

●このカメラはマイクロ・コンピューターによって制御されています。マイクロ・コンピューターの特性としてきわめてまれにカメラが作動しなくなります。万一このような状態になった時は、電池をいったん取り出し、入れ直してカメラを作動させてください。また極端な高電界下では電子回路が動かなくなることがあります。このような時は影響がなくなるまで離れてお使いください。

●業務用または過酷な条件での使用はおすすめできません。

電池に関するご注意

⚠警告　電池は正しく使いましょう。誤った使い方は液もれ･発熱・破損の原因となります。交換する時は、指定された電池を⊕⊖の向きに注意して正しく入れてください。

⚠警告　電池をショートさせたり、分解や充電をしたり、火の中に入れると破裂・発火の恐れがあります。

⚠警告　電池は幼児の手の届かないところに置いてください。また、万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

●電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用する時は、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。

●電池の⊕⊖極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布で良くふいてから使用してください。

●長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では地域によって入手困難なことがあります。

- カメラを長時間使わない時は、液もれの危険がありますので、電池をカメラから取り出して、20℃以下の湿度の低いところに保存してください。
- 電池に記載されている注意事項を守ってください。
- ご使用済みの電池は一般廃棄物として、各自治体の指示に従って処理してください。

修理に出す前にお確かめください

操作上のトラブル

こんな時には…	原因	こうしましょう	参照ページ
カメラが動かない。	①電源がOFF状態になっている。	①パワースイッチをスライドしてONにしてください。	25
	②電池の向きが正しくない。	②電池を正しく入れ直してください。	18
	③電池の容量が十分でない。	③新しい電池を入れてください。	19
	④寒さで電池の性能が一時的に低下した。	④カメラを保温しながら使用してください。	
	⑤撮り終わって巻き戻されたフィルムが入ったままになっている。	⑤フィルムを取り出してください。	32
	⑥フィルムが正しく入っていない。	⑥フィルムをもう一度入れ直してください。	22
液晶表示が突然消えてしまった。	①液晶表示は何も操作をしないと4分30秒で消灯します。	①パワースイッチをスライドしてOFFにし、再度ONにするか、ズームレバーを操作すると液晶表示が点灯します。	25 26

こんな時には…	原因	こうしましょう	参照ページ
リモコンを押してもシャッターが切れない。	①リモコンモードにしてから、約20分たつと液晶表示が消え、リモコンではシャッターが切れなくなります。 ②リモコン電池の容量が十分でない。	①ズームレバーを操作して液晶表示を再点灯させてください。 ②新しいリモコン電池(CR2025)と交換してください。	45 47
緑ランプが点滅して、シャッターが切れない。	①撮りたいものからWIDE時0.7m以上、TELE時1.2m以上離れていない。 ②フラッシュ充電が完了していない。	①撮影範囲内(WIDE時0.7m以上、TELE時1.2m以上)で撮影してください。 ②一度シャッターボタンから指を離し、充電が完了するまで数秒待ってから撮影してください。	29 36
暗いのにフラッシュが発光しない。	①フラッシュモードが発光停止または遠景モードになっている。 ②高感度フィルムを使用している。	①発光停止または遠景モード以外のモードにしてください。 ②フラッシュのモードを強制発光モードにセットしてください。	35 39
ファインダーがボケている。	①視度調節ダイヤルがずれている。	①視度調節ダイヤルをハッキリ見える位置に合わせてください。	12

写真のできが良くない場合

こんな時には…	原因	こうしましょう	参照ページ
ピントの合っていない写真ができた。	シャッターボタンを押す時にカメラが動いてしまった。	カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。	20
	ピントを合わせたいものがオートフォーカスの測距範囲からはずれていた。	ピントを合わせたいものを画面中央に持ってくるか、または、そのままの状態で、レリーズボタンを半押しにし、構図を決めて撮影してください。	27
	レンズやAF測距部が汚れていた。	レンズ、AF測距部をきれいにしてください。	8
	AF 測距部を指などでおおってしまった。	カメラを正しく構えて測距部を指などでおおわないようにしてください。	20
	最短撮影距離(WIDE時0.7m、TELE時1.2m)よりも近くで撮影してしまった。	WIDE時0.7m、TELE時1.2m以上離れて撮影してください。	29
	セルフタイマー撮影でカメラの直前に立ってシャッターボタンを押した。	カメラの前に立たず、ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを押してください。	44
	次のようなピントの合いにくい被写体を撮影した。 ・コントラストのない被写体 ・縦線のない被写体 ・画面の一部に極端に明るいものがある被写体 ・遠いものと近いものが共存する被写体 ・繰り返し模様の被写体 ・強い逆光の被写体	被写体と等距離にあるものでピントを合わせて撮影してください。 また、風景や遠くの物を写す場合は遠景モードで撮影してください。	21 27 30 40

こんな時には…	原因	こうしましょう	参照ページ
できあがった写真が暗い。	①フラッシュを指などでおおってしまった。 ②撮りたいものがフラッシュ撮影可能範囲よりも遠くにあった。 ③フラッシュが発光停止モードになっていた。 ④逆光状態で撮影した。	①カメラを正しく構え、フラッシュをおおわないように気をつけてください。 ②フラッシュ撮影可能範囲内で撮影してください。 ③フラッシュが発光するモードにセットして撮影してください。 ④強制発光モードにして撮影してください。	20 36 35
日付が写し込まれていない(写り込みがうすい)。	①モードが写し込みなし「-- -- --」になっていた。 ②日付の写る位置に、白・オレンジ・黄色などの明るい色があった。 ③パノラマモードで撮影した。	①写し込みたいモードをセットしてください。 ②日付の写る位置になるべく明るいものがこないように撮影してください。 ③パノラマモードでは日付は写りません。標準モードで撮影してください。	48 48 33
室内で写した写真の色がおかしい。	①照明の色が影響した。	①フラッシュのモードを強制発光モードにセットして撮影してください。	39

アフターサービスについて

◎保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、直ちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上大切に保管してください。

◎本製品に関するお問い合わせはオリンパスカスタマーサポートセンターに、修理に関するお問い合わせはオリンパス岡谷修理センターにご相談ください。

◎万一故障した場合には、ご購入された販売店にお持込みいただくか、直接オリンパス岡谷修理センターにお送りください。
使用説明書などにしたがったお取り扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満 1 年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
修理品をご送付の場合は、修理箇所を指示した書面を同封し、十分な梱包でお送りください。
また控えが残るよう、宅配便や書留小包のご利用をお願いいたします。

◎保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

◎当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後 5 年間を目安に当社で保有しています。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。
なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店またはオリンパス岡谷修理センターにお問い合わせください。

◎本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の損失など)については補償しかねます。
また、保証期間の内外を問わず、修理時の運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

オリンパスカメラクラブのご案内

オリンパスカメラクラブでは、オリンパスカメラおよびレンズ愛用者の組織です。
オリンパスカメラクラブに入会しますと

1. 会報誌オリンパスフォトグラフィをお届けします。
2. カメラクラブ主催の撮影会、写真教室などに参加できます。またオリンパスが実施する催物に優先的に参加できます。
3. オリンパスフォトグラフィの誌上コンテスト等、作品を寄稿し発表することができます。
4. 作品通信指導などを受けることができます。
5. カメラクラブの支部活動に参加することができます。
6. ご愛用カメラ・レンズの修理料金が特別割引になります。（ただし、オリンパス岡谷修理センターに送付（送料本人負担）いただいた場合のみ有効です。）

オリンパスカメラクラブに入会するには、オリンパスカメラおよびレンズご愛用者はどなたでも入会することができます。
入会のお申込みは、カメラクラブ専用申込票（預金口座振替書）をご利用ください。
また、郵便振込（振替口座番号 東京00160-9-18574 ズイコーニューズ編集室宛）もご利用できます。お申込みは常時受付けております。

入会金（申込金、新入会時のみ）……………………………800円
会費（購読費）1年分………………………………………4,200円
計　5,000円

オリンパスカメラクラブの所在地（日曜・祝日および年末年始定休）

オリンパスカメラクラブ／ズイコーニューズ編集室

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1丁目3番1号 小川町三井ビル
電話 03(3292)1933　営業時間10:00～18:00

2003年12月1日現在

主な仕様

形式	38～160mm ズームレンズ内蔵35mm全自動オートフォーカス式レンズシャッター
使用フィルム	35mmフィルム（JIS J135パトローネ）
画面サイズ	24×36mm
レンズ	オリンパスレンズ38～160mm F5.7～12.3 8群10枚
シャッター	プログラム電子シャッター
ファインダー	標準／パノラマ切替式、実像式ズームファインダー（オートフォーカスマーク、近距離補正マーク、緑ランプ、視度調節付）
ピント調節	パッシブ方式マルチオートフォーカス　フォーカスロック可能　近距離警告時レリーズロック ピント調節範囲： WIDE 0.7m～∞ TELE 1.2m～∞
露出調整	プログラム式電子シャッターによる自動露出調整 自動調節範囲 WIDE : EV5(F5.7･1S)～EV17(F17.7･1/410S) TELE : EV7.2(F12.3･1S)～EV19(F38.5･1/355S)
コマ数計	順算式液晶パネル表示

セルフタイマー	電子セルフタイマー　約12秒
リモコン	赤外線リモコン（ディレイ時間約3秒）
フィルム感度	DXコード自動設定 ISO 50～1600 中間ISO値は低感度側へ ISO 50未満およびDXコードのないフィルムは、ISO 100にセット
フィルム装填	オートローディング式（自動空送り機能付）
フィルム巻き上げ	自動巻き上げ方式
フィルム巻き戻し	自動巻き戻し方式（フィルム巻き上げエンド検出による自動巻き戻し、巻き戻しボタンによる強制巻き戻し可能、フィルム巻き戻し終了検出による自動停止）
フラッシュ	ビルトインフラッシュ　充電時間約6秒（常温時、新品電池使用） フラッシュ撮影範囲 WIDE : 0.7m～4.0m(ISO100ネガカラー) TELE : 1.2m～1.8m(ISO100ネガカラー) WIDE : 0.7m～8.0m(ISO400ネガカラー)

	TELE：1.2m〜3.6m(ISO400ネガカラー)
フラッシュ/遠景モード	オート発光（低輝度時、自動発光）
	(赤目軽減発光、他は“オート発光”と同じ)
	(発光停止、シャッタースピード最長約1秒)
	(強制発光)
	(遠景、発光停止 シャッタースピード最長約1秒)
	(夜景、シャッタースピード最長約1秒)
	(赤目軽減夜景、シャッタースピード最長約1秒)
バッテリーチェック	液晶パネルによる表示
電源	リチウム単セル (CR2) 1本（交換可能）
大きさ	幅111.5mm×高さ62mm×厚さ48.5mm
質量	235g(電池別)

■クォーツデートの主な仕様

写し込みデータの種類	①写し込みなし　②年月日 ③月日年　④日月年　⑤日時分
写し込みデータの外部表示	液晶パネルに常時表示
自動カレンダー機能	2040年まで自動修正

フィルム種類別セット	自動設定
電源	カメラ本体と共用

■リモコン(RC-300C)の仕様

赤外線リモコン

電池交換式	（CR2025　1個使用）
電池寿命	約5年
使用回数	約2万回
作動範囲	約5m
大きさ	33mm×56mm×7mm
質量	11g（電池別）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、予めご了承ください。

オリンパス株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2丁目3番1号　新宿モノリス

製品に関するお問い合わせ先

フリーダイヤル **0120-084215**
携帯電話･PHSからは **0426-42-7499**
FAXからは 0426-42-7486

◎オリンパスカスタマーサポートセンター◎
営業時間　平　日　9：30～21：00
土・日・祝日 10：00～18：00
（年末年始、システムメンテナンス日を除く）

修理に関するお問い合わせ、修理品ご送付先

〈 TEL 〉 **0266-26-0330**
〈 FAX 〉 **0266-26-2011**

〒394-0083　長野県岡谷市長地柴宮3-15-1
オリンパス岡谷修理センター
営業時間　9：00～17：00
（土・日・祝日及び弊社休日を除く）

CS0279000000-②

A 0104